

発達障がいの理解と発達を促す関わり方

社会福祉法人 日本キングス・ガーデン（指定管理）守谷市障がい者福祉センター
〒302-0101 茨城県守谷市板戸井 1977-2

助成事業の概要

実施目的：発達に障がいを持ったこどもに対しての理解と、発達の促し方について学ぶ機会を設け、社会一般での発達障がい児への理解の啓発と、支援方法についての研修

実施時期・場所：2015年10月17日（土）
14:00～16:00

場所：守谷市北守谷公民館

講師：国際医療福祉大学 保健医療学部
言語聴覚学科 岩崎淳也先生

事業の成果

今回の講演会は、その対象者を「発達障がいに関わる全ての方」として、多くの方の聴講ができるようにしました。当日は多くの方の聴講があり、福祉施設の関係者と専門職の方もいらっしゃいました。講演内容については、子どもがことばをどのように獲得していくのか、また、いわゆる障がい児の場合、どのような所から、その獲得がうまく行かないかが、わかりやすく説明されました。また、ADHD（注意欠陥多動性障がい）や自閉症スペクトラム障がいについても、とらえにくいその障がいについてわかりやすく説明があり、なかでも、周りから見た「困った子」は「困っている子」という言葉が、とても状況を良くとらえていて記憶に残りました。

後半は、発達と「遊び」と題して、子どもにとって、「遊び」が発達にとって重要な役割をしていることが話されました。強制される遊びは遊びで

はなく、「遊び」とは、日常的な生活の文脈から離れ、余裕の中でなされる活動であり、かつ、精神的なゆとりの中で生まれる活動でもあるとのことでした。また、自由遊び中心保育と学習時間を設けた一斉保育との比較では、自由遊び中心保育の方が語彙先例が高いとの研究結果もあり、障がいを持った子どもだけではなく、そうでない子どもにとっても、「遊び」が重要であることが示唆されました。

成果の広報、公表

講演内容は、発達の基本的な部分から、それらができないことが、障がいとどうつながっていくのか、また、ご本人がどのような生活のしにくさを抱えているかが良く分かる内容でした。参加者については、一概に発達障がいといっても多義にわたるため、どのような対象の障がいか、どのような関わりをしているかによっては変わりますが、関わり方の基本の習得、また、発達障がいへの理解が深まったと思います。

今後の展開

今回、言語聴覚士の先生をお招きし、発達障がいの理解と発達の促しを学ぶことができました。当事業所では、放課後等デイサービスを運営していることもあり、今回の講演会の内容を参考に、自閉症スペクトラムや、知的障がい、言語障がいなどの障がい児に対しての関わり方を、より根拠をもって専門的に行っていければと思います。

また、講演の中で、遊びの中での関わり方や具体的なポイントをお聞きすることができました。子供の行動をそのままねる「ミラリング」や音声やことばをまねる「モニタリング」、子どもの行動や気持ちをことばにする「パラレル・トーク」など、実践できることも多かったため、聴講された方たちも、すぐに導入できる内容として持ち帰って頂けたのではないかと思います。